

<第16回及び第17回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議>

「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」の第16回目の会議を4月27日、山口県漁協山口きらら支所で開催し、32名の委員の参加がありました。会議では、平成24年度の自然再生事業の報告、平成25年度の活動予定等について報告されました。また、これまでのアンケート結果等から取りまとめた榎野川河口域・干潟自然再生事業の活動方針（素案）について議論し、今後、ヒアリングなどを通じて活動方針を取りまとめていくこととなりました。

第17回目の会議は、平成26年2月23日、山口県セミナーパークで開催し、29名の委員参加がありました。会議では、平成25年度の活動報告や今後の活動方針、平成26年度の活動予定について、委員の皆様で積極的な意見交換が行われました。

今後は、委員の意見を踏まえながら、活動方針を定め、順応的に自然再生の取組を進めていく予定です。



第17回会議の様子

<平成25年度の取組まとめ>

実施日	内容
4月	○モニタリング：アサリ個体数、アサリ稚貝着定、あさり姫調査 適宜実施（環境保健センター） ○アサリ（間引き）、被覆網の管理、モニタリング等（適宜実施）【水産多面的機能発揮対策事業】 〈山口湾の干潟を守る会（山口県漁協山口きらら支所）〉
27日	○第16回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議 ○住民参加による干潟耕耘（耕耘、被覆網設置）、干潟観察会等／南潟 【榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト(AQUA SOCIAL FES!!2013)】 〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会、山口県漁協山口きらら支所〉
6月	○ナルトビエイ駆除/榎野川河口【水産多面的機能発揮対策事業】〈榎野川漁協〉（～8月）
6日	○第13回榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会総会／道の駅仁保の郷
8月	○カプトガニワーキンググループ打ち合わせ会議
13日	○海岸清掃／長浜〈榎野川流域活性化交流会〉
20日	○ふしの川水系クリーンキャンペーン〈榎野川漁協、山口市〉
27日	○カプトガニ観察会〈山口カプトガニ研究懇話会、山口博物館〉
8月	11日 ○榎野川まるごと体験バスツアー 【榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト(AQUA SOCIAL FES!!2013)】 〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会〉
9月	5日 ○カプトガニ幼生生息調査／南潟〈カプトガニワーキンググループ〉
7日	○カプトガニ幼生観察会／長浜（雨のため調査延期）〈カプトガニワーキンググループ〉
20日	○カプトガニ幼生生息調査／長浜〈カプトガニワーキンググループ〉
21日	○カプトガニ観察会〈山口カプトガニ研究懇話会、山口博物館〉
10月	5日 ○あゆ産卵場造成〈榎野川流域活性化交流会〉
7日	○第5回プロジェクト未来遺産現地調査（（公社）日本ユネスコ協会連盟）
11月	27～28日 ○平成25年度自然再生事業実施円滑化会議／岩手県一関市（環境省）
1月	30日 ○第Ⅱ型共同研究エクスカージョン〈環境保健センター、国立環境研究所、広島県 他〉
2月	23日 ○第5回プロジェクト未来遺産登録証伝達式〈榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会〉 ○第17回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議
3月	1日 ○宇津木の里森林整備／宇津木の里〈榎野川流域活性化交流会、宇津木の里〉
26日	○やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会・榎野川河口干潟再生小委員会合同会議

※ 資料の公開方法
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、榎野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ（<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>）で公開しています。
※ ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ニュースレター

No.10

発行日：平成26年3月
事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、平成25年度に榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。

第5回プロジェクト未来遺産に登録決定！ 榎野川もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト

平成25年12月9日、（公社）日本ユネスコ協会連盟が実施する第5回「プロジェクト未来遺産」に、榎野川流域での自然保護活動が登録されました。この未来遺産運動は、「未来へ伝承すべき遺産」として100年後の子どもたちに地域の文化や自然遺産を伝えていくことを目的に実施されており、今年度は、全国の23都道府県の39プロジェクトの応募の中から10プロジェクトが選出され、自然分野で県内初登録となりました。

この登録証伝達式が、平成26年2月23日にセミナーパークで行われ、自然再生協議会委員を含む約50名の出席者がありました。未来遺産委員会の土屋誠委員から、登録理由として、「榎野川の取組は、流域という広いエリアを対象としながら、産学官民の関係者が連携し、上・中・下流の人的な交流も活発に行われていることから、将来的に活動の継続が期待されるとして高く評価されたこと」が説明されました。その後、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会の西嶋裕作会長に登録証が授与され、西嶋会長から、流域での取組を引き続き発展させていく旨の決意表明がありました。

伝達式の基調講演として、琉球大学理学部土屋教授（未来遺産委員会委員）から、「干潟の恵み：森・川・海の繋がりに考える」をテーマに、流域での活動の重要性や榎野川の活動への期待等のお話がありました。最後に、参加者全員で輪になり、関係者どうしのつながりがさらに発展するよう誓い、閉会しました。



登録証授与



集合写真



基調講演



上になつてつながる

干潟再生活動&榎野川流域づくり活動トピックス

<南潟 干潟再生活動「榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト」>

平成 25 年 4 月 27 日、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会及び山口県漁協山口きらら支所の主催で、干潟耕耘作業が実施されました。まず、『榎野川の幸を味わう試食会』として、榎野川河口域（南潟）で育ったアサリのみそ汁、山菜や稚アユの天ぷらが振る舞われ、干潟耕耘前においしい料理をいただきました。



榎野川河口域南潟



山口湾のアサリ



山菜・稚アユ天ぷら



試食会の様子

干潟再生活動の様子

今年度の活動は、地域住民の皆様をはじめ、大学生や企業など、総勢 242 名で行いました。まず、クワやスコップを利用して人力で干潟耕耘作業を行いました。被覆網の上に砂が積もり、アサリが死んでしまう場所では、アサリを掘って助け出すレスキューを行いました。また、堆積した砂をバケツなどで人力により移動させ、大きなうね山（かまぼこ型）を作り、被覆網を設置しました。これは、漁業者の方から、昔、大きな砂山にたくさんのアサリが生息していたという経験をお聞きしたことからヒントを得て試験するものです。さらに、アサリを竹筒に入れて育てる『あさり姫プロジェクト』の試験を行うため、あさり姫を 5 箇所に設置しました。

干潟再生活動に参加した子供たちを対象にした、干潟生き物観察会や、潮干狩り体験なども行われ、干潟を身近に感じてもらうことができました。

今後とも、アサリ資源の増産を目指し、環境学習や漁場などの場所として順応的に再生活動を進めていく予定です。



うね耕耘



かまぼこ型耕耘



アサリレスキュー



あさり姫試験設置



干潟生き物観察会



集合写真

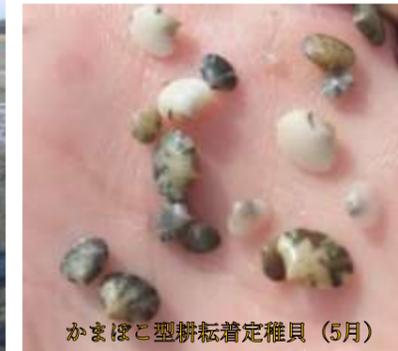
<維持管理&モニタリング>

山口県漁協山口きらら支所を中心に構成された「山口湾の干潟を守る会」は、水産多面的機能発揮対策事業を活用して被覆網管理等を実施し、榎野川漁協はナルトビエイの駆除等を実施しました。

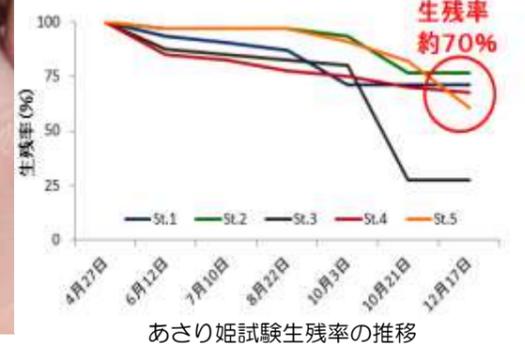
また、山口県環境保健センター等により、アサリ個体数、稚貝着定状況、竹筒内のアサリ生息調査（あさり姫試験）等が行われました。アサリの個体数は、一定数が維持されており、かまぼこ型のうねの被覆網下には、稚貝の着定と成長が認められました。また、あさり姫は、生残率もほとんどの場所で 70% 程度となり、竹筒の中でもアサリが生息できることがわかりました。これらの結果を、環境学習等にも活用していく予定です。



被覆網上の砂除去



かまぼこ型耕耘着定稚貝 (5月)



<榎野川まるごと体験バスツアー「榎野川もり・かわ・うみ自然再生プロジェクト」>

続く 2 回目のプロジェクトとして、榎野川流域をめぐり、豊かさを体験するバスツアーが、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会の主催で、流域住民等 42 名の参加により開催されました。榎野川上流の荒谷ダムでは、防府土木建築事務所の御協力により、普段入れない堰の中を見学することができました。次に、四季の森で、間伐体験を行いました。ソーメン流しとアユの塩焼きで昼食をとった後、仁保河川プール横で、水辺の教室と木工体験を行い、参加者は、榎野川の自然を楽しみ、満喫することができました。



荒谷ダム見学



四季の森の間伐体験



ソーメン流し



アユの塩焼き



水辺の教室



木工教室

<カブトガニワーキンググループの取組>

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に、平成 18 年度から継続して取組を実施しています。平成 25 年度は、9 月 5 日に南潟で、9 月 20 日に長浜でカブトガニ幼生の個体数調査を行いました。その結果、発見された幼生は長浜 1,368 個体、南潟 384 個体の計 1,752 個体でした。また、9 月 7 日には 40 名のボランティアによる調査を行う予定でしたが、悪天候のため、カブトガニ幼生・卵塊の観察会を行いました。

